

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている 法人理念を共有している。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる 「笑顔あふれる」生活空間である事を意識し、業務に取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 法人理念、事業所理念については、絶えずお伝えし、実現の為に何が出来るかをお話させていただいている。		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 散歩に出た時は、必ず挨拶している。世間話など気軽に話しかける。	○	近所の方や北城陽中の生徒などが気軽にお茶を飲みに来てもらえる雰囲気作りをしていく。近所の方とお話をされたりしている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 近くのスーパーやホームセンターへの買い物、理容室や近隣の中学校へ運動会の見学に行くなど地域の人々と交流している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会の方の見学などの時に相談に応じています。	○	災害時は職員がかけつけるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員1人1人が「出来ていること・出来ていないこと」「したいこと」の気づきの機会となった。	○	自己評価内容、外部評価結果について話し合い、改善項目を事業計画に反映させて実行していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	門扉の開閉について、徘徊行為で入所された家族にとって安心・安全の確保を願う反面、入居者の「その人らしさ」について検討しサービスに繋げた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症研修などに何か協力できる事があればと申し出ている。	○	認知症の啓発活動を市と協働で行えるように働きかけた。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中には制度を利用されている方が居られ、対応の注意点など職員1人1人の認識が向上しつつある。また、家族様には制度の簡単な相談にも対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人・事業所内で研修。虐待の広義を理解し入居者の声を職員が十分聞き取り、防止できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の利用者と話す機会の他、嗜好調査や出掛けたい所をアンケート調査したり「何でもノート」などに記入して頂いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族様の面会の頻度が高く、その都度報告している。また家族様の都合で面会が遠のいて居られる方には電話にて対応している。	○	今後は広報誌など検討したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見不平などはその都度職員に連絡ノートにて報告している。	○	家族会を立ち上げ機会を作っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで運営での役割分担など協議し業務に落とし込むようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事に出かけるとき等は職員体勢を厚くしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で異動があり、異動後もホームへ顔を出すなど入居者への配慮を行なっている。	○	職員の異動や退職者が頻繁にあるため、認知症高齢者にとっては混乱や不安を与えてしまう。もう少し配慮すべきである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の現場での到達度合いを見ながら、外部への研修を進めている。	○	職員のレベルに合わせて、基本的なことから研修をしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者への訪問は1件のみであり、今後は紹介して頂いた事業所とも関係を深めて行きたい。	○	地域包括支援センター、市役所など関連部署のほか、同業者との輪を広げていくことで、地域福祉のネットワークを構築したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の話を書くこと・また飲み会や入居者と共に焼肉パーティーを楽しむなど行っている。	○	ひとりになれる時間と空間を確保する。連休など休日のシフトを考慮する。外出に同行して気分転換を図れるようにしている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	意欲的に専門性を発揮してもらう為に、資格給を設けている。	○	各職員への頑張りへの、ねぎらいの言葉を掛けていく。ミスを責めすぎない。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	担当制により、その方のことをより深く知りたいと信頼関係を作る努力と傾聴を大切にしている。	○	受け止めて共に解決できる体制が必要。信頼関係により心を開いていただけるようにしたい。ケアプランに基づいたケアが必要。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	申し込みの段階で、家族様が困られている事をお聞きし、入居までの対応の仕方など相談に応じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までに他のサービスが利用できるよう相談に応じている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時に出来る限り家族様からその方の人生史や生活習慣など情報を収集し、それに添ったケアが出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意なことや一緒にして頂けることを見つけ、会話を楽しみながら過ごす。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの中に家族様の協力を得られる項目を設けるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族様がお部屋にてゆっくりとお話できるように心掛け接している。 外出などの機会を持って頂き楽しい一時を過ごして頂くようお願いしています。	○	認知症に対する理解を家族にもして頂ける機会を作る。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へお連れする為に、家族様に協力して頂いている。 なじみの品物、服、食べ物、友人、親類をご案内していただいている。今までの介護のご苦勞を語る場を設け、ストレスの軽減に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループホームの少人数中で、言い争いや孤立の無い様努めている。 常に皆さんと一緒に仲良くとをモットーに。 食事席などに気を配っている。	○	入居者様全員が参加できることを考え発表の場を持つ。 同じ趣味や、共通の話題を見つけ、交流するように配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	異動されたところに、時々顔を出し元気にされているか、確認に行ったりして、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	戸締りと称して夜間ホーム外周を見回りに出られる方には懐中電灯を持って頂き防寒具を着てお願いしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を実施しました。アセスメントシートに追加情報を記入しています。自分史台帳を作成しました。	○	話の中からもっと引き出して発展させていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタル測定を日課として行なうことで心身の変化を早期に発見できるよう努めている。介護の大きな比重を占める、食事、入浴、排泄介助、その他身体状況を中心に、記録内容を統一している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング等でその人にとっての課題と、ケアのあり方について話し合いをしている。	○	ケアカンの実施が始まり色々な目で見られると期待している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議と状況の変化時には家族と話しあっている。ケアマネからの情報提供に基づき努めている。	○	今後もより細かい見直しを行なって行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各階の日誌、パソコンの申し送りを利用して情報の共有をしている。	○	情報漏れのない様にしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接事業所のデイ、特養の催しなどに参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出レクなどにはボランティア様の協力をお願いしている。	○	今後も安全の為に協力をお願いしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の何名かの家族が利用に向けて情報収集をされるのに地域包括への問い合わせを勧めた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて対応。 なじみの病院の受診または訪問診療を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の治療に取り組まれている方とそうでない方が居られ、家族様の理解を得ながら支援していきたい。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療の看護師と連絡を取り対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	環境の変化で認知症の進行が懸念されるため、治療目的が概ね完了した場合は日常生活の中で機能訓練を行って頂くよう、早期の退院を主治医・理学療法士などと検討し、対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	今後最も必要となるテーマだと思う。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	法人の総合力を生かし、対応を検討していきたい。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	安心して過ごして頂くよう情報の詳細を出来る限り提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの人の習慣で言葉掛けが異なり大変注意を要する。面会者も数多く、記録には注意していきたい。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の意思を尊重した問いかけ。ご本人の思いや希望を優先するように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、その日の体調、気分など見て、健康的に楽しく過ごして頂けるように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	高齢になられても、身だしなみを気にされるのは素晴らしい事、入居者が美容院に行きたがられた時は、すぐいけるように努める。	○ 洋服を買う楽しみやパーマや毛染めなど、希望に添った支援を行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には食材のカット、盛り付け、食後のお手伝いもして頂いています。準備など同じ人にならないようそれぞれが出来る事をしていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食後テレビを見ながらコーヒーなど好きな飲み物を飲んでもらっている。おやつも1人1人の好みで飲み物を替えている。	○ カロリー、量、健康状態に合わせて、手作りなどで、喜び楽しんでいただけるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人のパターンで支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯にとらわれず、入浴を楽しんで頂ける様配慮したい。	○	夜間など職員体制が薄い時の対応が難しい。曜日や時間帯にとらわれずお好きに入浴して頂けるよう努力したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様のペースに合わせ、その日の体調、気分など見て、健康的に楽しく過ごして頂く。入居者様の得意な事をして頂くよう働きかけ本人様が必要とされていることを認識して頂く。	○	個々のレベルや趣味が違い難しいが努力項目です。個人的な好みや楽しみ方を支援し、実践できればと思う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことを楽しんでおられる方には出来るだけ買い物への声掛けを行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日一度は外気の空気、外の景色を見ていただいている。出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	○	散歩のコースが、おなじなので希望に沿った外出もしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族様の協力をお願いしている定期的なお買い物、外食への外出を行なっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に答えできるだけ利用されています。	○	家族様から送られてきた手紙に対してお返事を書いていただける様に援助したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は必ず、居室にてゆっくりお話をしている。殆ど毎日のように来られる家族様もおられるため、気持ちよくお迎えするように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じ取り組んでいます。	○	職員ミーティングなどで勉強をしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の同意が得にくく危険の無い範囲において行なっている。日中玄関の鍵を掛けないケアに取り組んでいる。特に散歩の時などは開放している。	○	門扉の開放はリスクともなうため、家族様との話しを、担当者会議などで話す機会を持ちたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「少しでも姿が見えない時は「○○さん」と声をかけ所在確認を行なう。」	○	夜間、夜回りをしてくださる入居者様がおられるため、転倒に配慮しながら見守っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は決められた所に保管。危険品は施錠できるところに納めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防訓練や、勉強会を通じて知識を学ぶ機会を作り、日々事故防止に努めている。	○	個々のリスクに合わせて、ケアプランを作成、事故防止に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会などを通じて急変や事故発生時に備え、訓練を行なっている。	○	夜間帯は一人夜勤のため、急変時に備えて、心肺蘇生法の講習を義務付けていくべき。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月一回入居者様と共に避難訓練を行なっている。法人との協力で、月一回訓練を行ない、消防署にも電話で指示を頂いている。	○	地域の方達との訓練が出来ていない。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス担当者会議などに於いて、家族様と対応策など話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「毎日のバイタル測定。観察により行なっている。」 「一人ひとりの状態は常に気をつけている。」 「少しでも体調の異変に気付いたら、他の職員に報告、バイタルチェックなどして指示を仰ぐ。」	○	今後も継続していきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のリストにより把握に努めている。	○	薬を入居者様に渡す際、名前と薬を確認して慎重に服用して頂いてはいるが薬の目的や副作用など勉強していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便間隔のチェックと、それに応じた対応を担当医と相談している。便秘の予防には水分摂取、毎日の体操や散歩等。	○	出来るだけ、食べ物や運動で支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいをして頂ける様声掛け、誘導をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをして補うように心掛けている。食べられる量は本人の希望で、量を減らしたりしている。決まった時間以外にも、水分確保を心掛ける。バランスよく食べて頂ける様配慮しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、インフルエンザ予防はしている。手洗い、うがいを徹底している。職員、その家族が感染した場合など対応策をマニュアル化した。	○	マニュアルにそった対応が出来る様にしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具など常に清潔を保ち、食材は全て加熱処理、新鮮な食材の使用。食材・調理後の保管管理はマニュアル化している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花を植えたり、畑仕事が近所の方から見えるなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔にし、カレンダーや花、季節に合った絵や飾りが工夫されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで思い思い、友人と話されている。冬は、ひなたぼっこが出来たり、夏は日陰で談話したりなど、又ソファーでくつろいだりできるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族様になじみの品物を持って来ていただくよう、お話をしている。本人様のなじみの家具を持ち込んでいただいている。	○	個性のある部屋作りが出来たらよいと思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋のカーテン閉め、室温調節は気にかけている。気になる臭いはすぐに除去し、窓を開け空気入れ替え、天気の良い日はフンを干している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人出来る力を活用し、食事作り、洗濯、畑作りなどを出来る事はしていただいている。手すり、エレベーターなどで自由な行動をされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々にあわせて工夫している。1人1人のキーワードとなる言葉かけをして、わかる力への働きかけを行ない支援している。	○	さり気無い介助が必要。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは有効活用されている。冬はひなたぼっこ、春、秋はバーベキューをしたりおおいに活用している。外回りは散歩が出来、庭は季節に応じた野菜・花がつけられている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)